

寺家っこまつり2023 で育つ子供たち

10月13日(金)の学習参観終了後に、5年生児童による出店がならぶ寺家っこまつり2023が開催されました。当日は、好天に恵まれて大勢の人が集まり、長い行列ができる店もありました。

この寺家っこまつり2023は、寺家小学校育友会役員の桶川さんが中心となり、「自ら企画し、高い志をもち、多様な他者と協働しながら、新しい価値を生み出す主体性や創造性、起業家精神等、これからの時代に求められる資質・能力を育成する」ことを目的に、今年度初めて行いました。

当日にいたるまで、子供たちは、本活動の目的や世の中の商いの仕組みについて学習し、自分がやってみたい商売について一人一人の思いをもち寄り、ハンドメイド作品、射的、駄菓子、フルーツポンチ、フランクフルト、くじ引きの8つの店を出すことになりました。それぞれのグループの特色を生かすために、地域で仕事をしておられる5人のアドバイザーの方々に参加していただき、値段決め、仕入れ、宣伝等について助言を受けて計画や準備を進めてきました。

お店を行うための資金は、育友会特別会計より初期費用を出資していただき、売り上げから返還することになっています。最終利益は、5年生が話し合って決めます。本物のお金を扱うということで、最初は漠然としたイメージをもっていた子供たちでしたが、実際にお店やスーパーに出かけて仕入れたり、インターネットで注文して届いた品物を手にしたりしていく中で、出店への意欲が次第に高まってきました。

そして迎えた当日、校庭にはたくさんの子供たちや保護者でとてもにぎわいました。この寺家っこまつり2023について、5年生のSさんは次のようにまとめていました。

私は、寺家っこまつり2023でフルーツポンチのクリエイターとしてはたらきました。まず、いろんなじゅんぴをしました。かんぱんを作ったりねだんを決めたりしてじゅんぴをしていると、お仕事の大変さに気づきました。そして、むかえた当日は、そうぞうよりも大変なことなどに気がつきました。けれども、それ以上にうれしかったことがたくさんありました。例えば、グランドで女の子の親子がフルーツポンチを笑顔でかきまぜていたりして、とてもほっこりしました。

まとめてみると、じゅうじつしたお祭りでした。いっぱい売れて、いろんな人が喜んでくれて、さいこうな祭りをかきまぜてきたと思います。このようなことがいろんな所で、広まっていければと思いました。

普段は消費者の立場で、お店の商売を見ていた子供たちが、いざ売り手側に立って「もの」や「こと」を売る仕事に従事してみると、思ってもいなかったことに気付くとともに、相手に喜びを与えることで自分の心も温かく豊かになる貴重な経験をしたようです。誰かが誰かを支えていることで成り立っている社会の一員として、将来、自分らしく働く芽が育った体験的な活動であったと思います。(校長 広田 積芳)



【アドバイスをもらう子供たち】



【事前準備の様子】

